

ぐんま航空宇宙産業振興協議会の設立について

国内の少子高齢化による人口減少や市場の縮小、新興国をはじめとするグローバル経済の進展による国際競争の激化など、本県産業を取り巻く環境は大きく変化している。

こうした中、県内ものづくり産業が今後とも持続的に発展していくためには、時代の要請に柔軟に対応しつつ、ニーズを的確に捉え、独自技術に磨きをかけ、さらなる高度化・差別化を図っていくことが重要である。

本県には、世界文化遺産に登録された富岡製糸場をルーツとするものづくりの長い歴史があり、戦前には中島飛行機の主力工場が置かれ、航空機製造の高い技術をもとに多くの中小企業が集積し、「ものづくり立県ぐんま」を形成してきた。

こうした素地を活かし、次の時代をリードする新たな産業に挑むことが求められる中、特に、高度なものづくり技術を活かすことができ、市場性、将来性が有望な「航空・宇宙分野」に注目が集まっている。

「航空・宇宙産業」の国内市場規模は、現在約1兆3千億円、2020年には2兆円規模に拡大すると見込まれており、部品点数は自動車の約3万点に対し、大型旅客機では約300万点と、極めて裾野が広い産業である。

本産業は長らく、海外大手企業の独占市場であったが、近年では、国内メーカーによる旅客機や自家用ジェット機、衛星打ち上げロケットの開発などが進み、中小企業にとっても、本格的な参入の時期を迎えている。

さらに、「航空・宇宙産業」はそのイメージとも相まって、夢や希望を抱ける成長分野でもあり、将来を担うエンジニアやものづくりを志す若者にとっても、魅力的な就職先になり得る。

以上から、本県として「航空・宇宙産業」への参入を目指す企業への支援を通じて、県内産業の振興を図るため、「ぐんま航空宇宙産業振興協議会」を設立することとする。

平成28年3月17日

群馬県